

<仙台国税局長賞>

税に託された将来

福島市立北信中学校 3年 橋本 美紘

私の父は、警察官です。私達家族、そして市民のために働いてくれている父の給料は、税金から出ています。私はよく父から仕事の話を知っているのですが、その中で、とても印象に残っている話があります。

それは、父が警察学校に学生として居た時も、今と同じく税金からの給料を貰っていた、という話です。まだ学生として学んでいる途中であるのに、どうして給料が貰えるのか疑問に思い、何故なのか父に聞くと、父は、

「警察学校は警察官として研修をする場だからだよ。だけどその給料も税金から頂いているものだから、教官からは、『市民からの税金で勉強させてもらっているんだぞ』と何回も言われたし、自分達もその言葉を受けて、勉強を頑張っていたな。」と言いました。

私は、その言葉が心に残りました。なぜなら、「税金で勉強させてもらっている」という状況は、今中学校に通っている私も同じだからです。父が税金からの給料を貰うことで勉強ができていたように、私は税金が使われている学習用具や設備のおかげで勉強ができています。学校でかかっているお金について調べてみたところ、一年間で中学生一人に約97万円もの税金が使われていると書いてありました。97万円という額は、当然ですが私一人ではとても払いきれません。今までの義務教育期間の分も合わせれば、さらに膨大な金額になります。ですがそのお金は、「税金」として私の代わりにたくさんの方が払ってくれています。このような支えによって、私は今勉強ができています。

また、私が使っているすべての教科書には、「これからの日本を担う皆さんへの期待を込め、税金によって無償で支給されています」と書いてあります。この「期待」とは、政治家の方々からだけではなく、税を納めている国民全員からの期待だと、こ

の作文を書く中で気付きました。かつて父が警察学校で貰っていた給料にも、「これからの日本を守る未来の警察官」への期待が、たくさんの人から込められていたのだと思います。

父は今、警察官として、市民や私達家族の為日々懸命に働いています。その姿はともかっこよく、私はそんな父を誇りに思っています。そしてその懸命な働きこそ、給料を通じて税に込められていた期待に応えている証明なのだと思います。

今の私には、将来、国民の一人として多くの人を支え、日本を担って行ってほしいという期待が税を通じて込められています。たくさんの人が納めて下さった税を無駄にしないため、何より、税に込められた期待に応えるため、「支えられている」という事への感謝の気持ちを忘れず、これからも勉強に励んでいきたいです。そして、今私を支えてくれている人や父のように、たくさんの人を支えていける大人になりたいです。